Ⅰ．受託事業・教育事業報告

1．松本大学×道の駅「中条」×国土交通省　連携企画
松本大学総合経営学部による道の駅「中条」を拠点とした地域活性化
―88（やまんば）プロジェクト2016―

総合経営学部総合経営学科　清水　聡子

（1）はじめに

松本大学と道の駅「中条（なかじょう）」及び長野国道事務所は、長野県初の連携企画型の実習を2015年度より開始した。連携企画の実施にあたり、道の駅「中条」の運営を担う指定管理者であるアクティオ株式会社と本学は事業連携・推進に関する協定を締結し、2015年7月7日に記者会見を行った。松本大学総合経営学部では国土交通省の推進する「道の駅を利用した地域活性化」に積極的に参画し、地域貢献と学生教育を進めている。

1995（平成7）年に登録された道の駅「中条」は長野市西部の山間部、主要地方道長野大町線沿道に立地する。道の駅「中条」のある旧中条村は2010（平成22）年1月に長野市、信州新町、中条村の1市1町1村で合併し、長野市中条となった。旧中条村は山姥伝説の里として知られている。

松本大学総合経営学部の学生は山姥が「子育ての神様」として住民から大変慕われていることに着目し、山姥伝説を中条地域の大切なお宝として捉え、「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条を応援します！として、「88（やまんば）プロジェクト」を立ち上げた。これは山姥（やまんば）の“や”と“ば”を数字の8で表現したら面白い！と学生の柔らかい発想から生み出された。長野市中条地域の活性化に向けて①「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条のお宝探し、②中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力を実施している。

2016年度も協定に基づき、道の駅「中条」を拠点とした地域づくりと地域活性化を図ることにより、地域発展と学生教育に寄与することを目的として活動を続けている。本稿では、2016年度の88プロジェクトの活動を報告する。

（2）2016年度キックオフ・ミーティング

2016年5月23日、88プロジェクトのキックオフ・ミーティングを総合経営学部学生が企画し、道の駅「中条」の皆様と開催した。道の駅「中条」の運営を担う指定管理者アクティオ株式会社の岡部禎之常務取締役、植山貴司東日本営業部次長、下内光雄道の駅中条施設長、小川博史道の駅中条副施設長、高橋さつき道の駅中条副施設長の5名にご出席いただいた。また本学教職員8名（室谷心副学長、増尾均総合経営学部長、矢﨑久総合経営学科長、尻無浜博幸観光ホスピタリティ学科長、小林俊一総合経営学科教授、成者政総合経営学科教授、赤羽雄次管理課長、清水）が参加し、2016年度も熱気溢れるスタートとなった。

岡部常務取締役よりご挨拶を頂戴し、総合経営学科4年の阿部愛さんが2015年度の88プロジェクトの成果報告を行った。また下内施設長より出席者全員へ笹おやき（野沢菜とあずき）を頂戴した。

2016年度は笹おやきのパッケージの考案と「むしくらまつり」の連携・協力を中心に行っていくことを話し合った。学生はアイデアを生み出し、アイデアの種を撒き、道の駅「中条」の皆様と一緒に育てる楽しみを見いだすことであろう。88プロジェクトの活動によって、地域活性化の花が咲き、果実の収穫を地域の皆様と共に喜ぶことができればと考えている。

アクティオ株式会社岡部禎之常務取締役よりご挨拶

下内光雄道の駅中条施設長より
出席者全員へ笹おやき

総合経営学科4年の阿部愛さんが
2015年度の成果報告

（3）アウトキャンパス・スタディによる現地調査

2016年6月25日、総合経営学部学生14名、教員3名（増尾均総合経営学部長、矢﨑久総合経営学科長、清水）、計17名で、道の駅「中条」でアウトキャンパス・スタディを行った。

今回のアウトキャンパス・スタディでは、中条村最後の久保田元夫元村長に「むしくらまつり」への思いを伺った。2010年1月1日、長野市と信州新町と中条村が合併し、中条村は長野市中条となった。「むしくらまつり」で旧中条村の一体感と中条地域への愛着を感じてもらいたいという久保田元村長の切実な思いを学生は肌で感じた。

次に新商品の打ち合わせ、今後の進め方について話し合った。11月3日の「むしくらまつり」の連携・協力に向けて、道の駅「中条」の施設やイベント広場を見学し、学生は「むしくらまつり」のイメージを膨らませた。おまつりは地域のアイデンティティ（存在証明）であると考えられる。2016年の「むしくらまつり」は第10回目となり、節目の年となる。地域の皆様とともに楽しむことができればと考えている。

お昼は西山産淡竹の筍ご飯、筍煮物、筍汁、中条地区のきゅうり漬け、中条ファームの大豆揚げ、どらい納豆、真田兄弟が今生の別れの時、お櫃の冷や飯を握り弟幸村に持たせたと伝わる「こねつけ」等、地域の旬の食材を沢山いただいた。

2015年、道の駅「中条」は地区内の遊休農地を活用した「道の駅中条ファーム」を開設した。その中条ファームにおいて、梅雨の晴れ間となった午後に、営農責任者の藤本人寿道の駅中条副施設長にお教えいただきながら、西山大豆の種まき体験を行った。アイデアの種を撒いている学生が、道の駅中条ファームで実際に種まきを行った。むしくらまつり前に自分たちで撒いた種を収穫し、収穫した西山大豆から松大生として何ができるか、想像（創造）の翼を広げていくことだろう。

「久保田元村長のお話をこれからに生かしていきたい」「実際に見学したことを今後の準備につなげていきたい」と学生の心に響く、学習効果の高いアウトキャンパス・スタディであった。

久保田元夫元中条村長の
「むしくらまつり」への思い

道の駅「中条」のイベント広場を見学

「道の駅中条ファーム」での
西山大豆の種まき体験

遊休農地を活用した「道の駅中条ファーム」

(4) ８８プロジェクト開発商品誕生

2016年10月24日、総合経営学科で専門研究、卒業研究を受講する3・4年生17名と清水の計18名は、道の駅「中条」でアウトキャンパス・スタディを行った。今回は、笹おやきのパッケージの最終調整と長野市中条地域最大のイベント「むしくらまつり」（11月3日）のスケジュール確認を下内光雄道の駅中条施設長、小川博史道の駅中条副施設長、高橋さつき道の駅中条副施設長とともに検討した。

また6月25日（土）に西山大豆の種まき体験を行った「道の駅中条ファーム」で、営農責任者の藤本人寿道の駅中条副施設長の指導のもと、西山大豆の収穫体験を行った。自分たちで撒いた種が成長し、沢山の実をつけた。収穫の楽しさや喜びを存分に感じ、西山大豆を使った商品を開発したいと学生は夢を膨らませている。

2016年の「むしくらまつり」は第10回目となり、節目の年となる。８８プロジェクトでは、

・笹おやきの販売（道の駅「中条」×松本大学による笹おやきパッケージのプロトタイプ（試作品））
・塩釜港直送東北復興応援おでんの販売
・Dance Show Time in 道の駅「中条」（ダンス企画イベント）11：30〜11：50
・きのこ千人鍋の調理とふるまい

の4つの企画を実施する。今回のアウトキャンパス・スタディでは、自然の中で心と体を働かせた。また美味しい新そば、笹おやき、フルーツ、季節のソフトクリームを頂戴し、旬を味わった。「むしくらまつり・今後の活動を通して自分達にできることを精一杯やりたい」「道の駅中条の方々が松大生と真剣に向き合ってくれた」「スムーズな進行ができるよう自分達で盛り上げていきたい」といった声が学生からあがった。11月3日（木）、道の駅「中条」で行われるむしくらまつりで大勢のお客様をお迎えする準備が整った。「さぁさ、よっとくらえ！」

■関連する新聞報道
『長野市民新聞』（2016.11.1）「笹おやき新包装に　道の駅中条　3日に販売　山姥伝説モチーフ　松本大生が原案」と記事が掲載された。

笹おやき新包装を確認し、意見交換する学生

笹おやき新包装のお披露目

営農責任者の藤本人寿道の駅中条副施設長の指導のもと、西山大豆の収穫作業をする学生

道の駅中条ファームで収穫後の写真

笹おやきのパッケージ

笹おやきのパッケージデザイン

(5) 長野市中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力

2016年11月3日、総合経営学部で専門研究、卒業研究を受講する3・4年生28名と中国嶺南師範学院の交換留学生梁昌燕さん、教員4名（増尾均総合経営学部長、矢﨑久総合経営学科長、成者政総合経営学科教授、清水）、計33名は、長野市中条地域最大のイベント「むしくらまつり」に参加した。2016年の「むしくらまつり」は第10回目、節目の年となり、約5,000人が長野市道の駅「中条」へ来場された。

松本大学総合経営学部８８プロジェクトでは、

・笹おやき1,000個販売（学生が考案した新パッケージ"道の駅「中条」名物笹おやき"）
・塩釜港直送東北復興応援おでん200皿（600本）販売
・Dance Show Time in 道の駅「中条」（ダンス企画イベント）

・きのこ千人鍋の調理とふるまい

を実施した。道の駅「中条」の皆様には、昨年学生がデザインした８８プロジェクトスタッフジャンパーと美味しいお弁当をご準備いただいた。今回のアウトキャンパス・スタディに参加した学生から、「商品開発等の貴重な体験ができた」「自分自身成長することができた」「笹おやきが目の前で完売した瞬間はとても感動した」といった感想や、次年度に向けて「地域の方やスタッフの方ともっと協力したい」「お客様の目線を大切にすれば、よりよいものになる」といった意見が出された。８８プロジェクトの今後の活動に結びつけたい。

■関連する新聞報道
『日本農業新聞』（2016.11.10）「松本大生が長野市の道の駅中条と連携　実践力学び、地域元気に」と記事が掲載された。

山姥伝説をもとに笹おやきのパッケージを考案した学生が販売

塩釜港直送東北復興応援おでんを学生が販売

学生と地域の皆様とのダンスイベント

地域の皆様へふるまったきのこ千人鍋

（6）道の駅「中条」をフィールドとした理論と実践の融合を目指して

2016年12月3日、８８プロジェクトの活動を行っている清水ゼミの学生8名と清水、計9名は、カレッタ汐留の中にある「アド・ミュージアム東京」を訪問した。「アド・ミュージアム東京」は日本で唯一の広告ミュージアムだ。広告学芸員の坂口由之先生に解説していただき、日本の広告史を収蔵作品でたどる常設展と企画展を見学した。

企画展「D&AD Awards 2016」は、英国・ロンドンに本部を置く非営利団体「D&AD（Design and Art Direction）」の表彰作品を展示している。今回、最高賞であるブラック・ペンシルに選ばれた2作品のうち1作品は、日本のマスキングテープ「mt」の博覧会、「mt expo2015」である。KIITOデザイン・クリエイティブセンター神戸で開催された作品の一部が飾られている。マスキングテープの可能性と美しさを感じることができ、博覧会に足を運んだ来場者がマスキングテープを使って楽しんでいる映像は注目すべき点であろう。

ブラック・ペンシルのもう1作品はThe World

Addressed（住所のある世界）である。世界を3メートル四方のグリット57兆個に区切り、住所を３つの単語の組み合わせだけで表現した位置表示システムで、イギリスのWhat3Wordsの作品が選ばれた。松本大学の一部はprosper/scab/encases（成功する/かさぶた/包む）の3つの単語で表わされている。

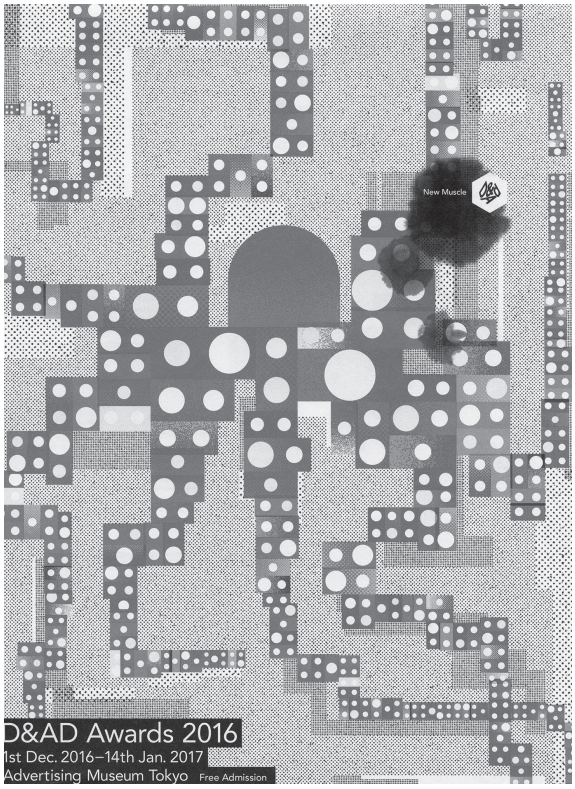
学生は、日本の広告史と最先端のデザインを学び、「８８プロジェクトの活動のヒントを得ることができた」「西山大豆を使った食品を考えるのにとてもいい経験ができた」「姿や形は変わっても、人に何かを伝えるという目的をもった広告はすごいなと感じた」「昔のCMが新鮮でオシャレに見えた」と感想をまとめている。

2017年3月3日、さいたま新都心合同庁舎で行われる道の駅と大学連携成果発表交流会に向け、アイデアを形にして、表現する能力を身につけていくことだろう。大変丁寧なご説明と多くの資料を提供くださった坂口由之先生に御礼を申し上げたい。

D&AD最高賞に選ばれた日本のマスキングテープ「mt expo 2015」の作品の前で全体写真

ハートランドビール（キリン）のアートプロジェクトの前で坂口先生の解説を聞く学生

ポスターのメッセージを受け取り、
８８プロジェクトのメッセージを考える学生



D&AD Awards 2016のポスター

（7）「むしくらまつり」の活動に対する意見交換と今後の展開

2016年12月12日（月）、松本大学において「むしくらまつり」の活動に対する意見交換と今後の展開についてミーティングを行った。下内光雄道の駅中条施設長、小川博史道の駅中条副施設長の2名にご出席いただき、成者政総合経営学科教授、清水が参加した。

学生は「むしくらまつり」において実現した4つの企画への感想や反省点・改善点、今後の展開について発表し、下内施設長、小川副施設長と意見

交換を行った。また下内光雄施設長より豆乳ドーナツを頂戴し、８８プロジェクト2年間の活動を総括していただいた。自ら種を植えて収穫した西山大豆を中心にした新たな商品開発案や道の駅「中条」に西山大豆CAFÉを設置する案など、学生はアイデアを出し続ける作業を続けている。

アイデアを出し検討する学生

（8）道の駅と大学連携成果発表交流会に参加して

2017年3月3日（金）、さいたま新都心合同庁舎にて、道の駅と大学連携成果発表交流会が開催され、総合経営学部総合経営学科3年の明田真典さん、井坂朱里さん、小沢菜緒さん、藤原裕太さん、増尾均総合経営学部長、矢﨑久総合経営学科長、赤羽雄次管理課長、清水の計8名で参加した。

道の駅中条と松本大学とのコラボレーション企画、「８８（やまんば）プロジェクト」は山姥伝説を学び、山姥伝説ゆかりの地を巡り、「子育ての神：山姥伝説の里」中条のお宝探し、長野市中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力を行ってきた。

道の駅と大学連携成果発表交流会では12の大学が成果を発表した。

1．城西国際大学（道の駅「鴨川オーシャンパーク」との連携）
2．茨城大学（道の駅「常陸大宮」との連携）
3．いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム（道の駅「ひたちおおた」との連携）
4．松本大学（道の駅「中条」との連携）
5．長野大学（道の駅「あおき」との連携）
6．帝京大学（道の駅「甘楽」との連携）
7．佐野短期大学（道の駅「どまんなか　たぬま」との連携）
8．跡見学園女子大学（道の駅「もてぎ」との連携）
9．立正大学（道の駅「めぬま」との連携）
10．立教大学（道の駅「いちごの里よしみ」との連携）
11．淑徳大学（道の駅「果樹公園あしがくぼ」との連携）
12．城西大学（道の駅「おがわまち」との連携）

松本大学は4番目の発表で、「やまんば（８８）からの贈り物～中条（なかじょう）のお宝探し～」として、笹おやきの新パッケージを考案、むしくらまつりにおいて、笹おやきと東北復興応援おでんの販売、きのこ千人鍋のふるまい、ダンス企画イベントを実施。また西山大豆の商品開発に向けた取り組み等、数多くの活動を藤原さんが報告し、井坂さんは松本大学代表として意見交流を行った。また道の駅中条の下内光雄施設長から、学生が種を撒き、収穫した西山大豆の新商品「どらい納豆」の紹介があった。

会場からは学生が考案した新パッケージの笹おやきを1日で1,000個完売したことに「凄い！」と声がかかった。

成果発表交流会に参加した明田さん、井坂さん、小沢さん、藤原さんに感想をまとめてもらった。

・明田さん：地域を大切にし、活性化を目指す点はどの大学も同じだと思うのでSNSを通して各大学と協力して宣伝を行えばさらに良いものとなると思いました。
・井坂さん：８８プロジェクトの代表としてディスカッションに参加し、自分の力を試すことができました。来年度も８８プロジェクトの活動をより良いものにするために頑張っていこうと思います。
・小沢さん：８８プロジェクトの新しい目標（カフェの設置など）の実現に向けてさらに努力していこうという思いが強くなりました。プレゼンの仕方や声の出し方など学べる機会になりました。
・藤原さん：今回初めて120名を超える参加者の前でプレゼンを行いました。緊張しました。特に感じたことは、道の駅と大学の連携は同じでも、どの大学も全く違う活動をしていることです。いい所は積極的に吸収していきたいと思います。

８８プロジェクトの活動において、学生は道の駅「中条」の皆様とともに挑戦的な学びを数多くさせていただいていることを実感したことだろう。道の駅と大学連携成果発表交流会に参加し、道の駅と他大学の学生の発表から学んだことを次年度の

活動に結びつけてもらいたい。

発表する藤原さん、小沢さん、井坂さん、明田さん

参加大学代表者による意見交流の様子

発表者の4学生とポスター

(9) むすびにかえて

「道の駅」は1993（平成5）年に創設された制度で、市町村等からの申請に基づき、国土交通省道路局で登録を行っている。2017（平成29）年4月21日までに全国1,117駅が登録されている。長野県は44駅登録されており、全国第3位の「道の駅」登録数である。

松本大学と道の駅「中条」及び長野国道事務所は長野県初の連携企画型の実習を2015年度より開始し、旧中条村（長野市中条）地域の活性化に向けて、山姥伝説を地域の独自性や魅力を生み出す源泉として捉え、「８８（やまんば）プロジェクト」を立ち上げた。

2016年度は８８プロジェクト2年目の活動を行ってきた。旧中条村の久保田元夫元村長から中条地域について直接学び、地域の特産物である西山大豆を使った商品開発を考案するために、耕作放棄地に西山大豆の種を撒き、収穫を行った。長野市中条地域最大のおまつり「むしくらまつり」では4つの企画が実現した。①学生が考案した笹おやき新パッケージを披露し1,000個販売、②塩釜港直送東北復興応援おでん200皿（600本）販売、③Dance Show Time in 道の駅「中条」（学生が企画したダンスイベントを実施）、④きのこ千人鍋の調理とふるまいを行った。「アド・ミュージアム東京」を見学し、プロモーションやプレゼンテーションを学び、道の駅と大学連携成果発表交流会で2016年度の８８プロジェクトの成果を発表し、12大学の学生と意見交換を行った。松本大学の学生として何ができるか、学生はゼロベースで考え、企画・立案し、道の駅中条の皆様と実施し、成果をプレゼンテーションすることができた。

松本大学総合経営学部では地域社会での実践的な学びを重視し、「地域の学びを通して社会の最前線で活躍する人になる」をキーワードに理論と実践の融合を目指した教育活動を推進している。地（知）の拠点として、さらに地域に求められる"松本大学×道の駅中条"の取り組みにしていきたい。

最後に、アイデアを出し続け、力を注いだ学生の皆さんと、学生の思いに寄り添い、一緒に向き合ってくださった道の駅「中条」の皆様、中条地域の皆様、そして学習の場を提供してくださった国土交通省の皆様にお礼を申し上げたい。ありがとうございました。道の駅「中条」へ「さぁさ、よっとくらえ！」。今後とも応援をよろしくお願いいたします。

資料：『長野市民新聞』（2016.11.1）

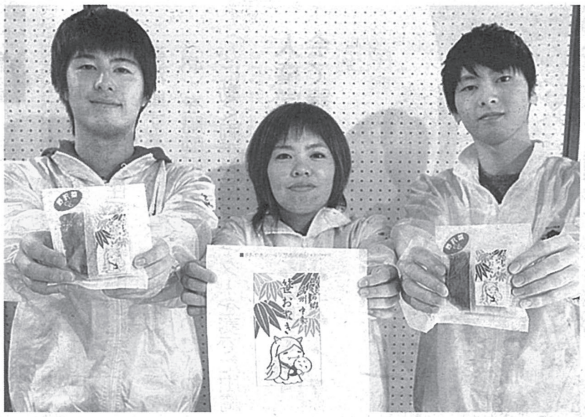
長野市民新聞　（第三種郵便物認可）

笹おやき新包装に

道の駅中条 3日に販売

山姥伝説モチーフ 松本大生が原案

中条住良木の「道の駅中条」を運営するアクティオ＝本社・東京＝は、松本大学＝松本市＝の学生たちのアイデアを基に中条地区に伝わる山姥（やまんば）伝説のイラストを作り、同施設が販売している「笹おやき」の包装紙に採用した。両者が連携して取り組む地域活性化事業の一環。3日、道の駅を会場に開かれる「第10回むしくらまつり」で、学生たちが店頭販売する。



松本大生のアイデアを基に山姥伝説を表現した「笹おやき」の包装紙デザイン

松本大学は、昨年7月のアクティオとの連携締結以降、総合経営学部総合経営学科でマーケティングを教える清水聡子教授の研究室が中心となり、子育ての神様として信仰される山姥の〝や〟と〝ば〟を数字で表した「88プロジェクト」と銘打って、これまでに中条特産の西山大豆を生かした商品開発などに取り組んでいる。

笹おやきは、長野市西部の西山地域の名物。若い感性を生かした包装にすることで、より手に取ってもらいやすくしようと、アクティオが松本大にデザインのアイデア提供を依頼。同研究室の3、4年生18人が今年6月から作成に着手した。

学生たちは「山姥の怖いイメージを覆すかわいらしい絵柄にしたい」「笹で巻いていることが分かりやすいように半透明な包装がいい」などと意見を集約。アクティオの依頼で県内のデザイナーがイラストにした。

10月24日に道の駅で行った打ち合わせで、完成品を手にした3年生の井坂朱里さん（22）は「消費者目線でパッケージを考えるのは難しく勉強になった。製作費を抑えながらも高級感を出せたと思う」と手応えを感じていた。

むしくらまつりは午前9時30分～午後3時で、新包装の笹おやきを計千個用意。具材は野沢菜や切干大根、あずき、カボチャなどがあり、1個160円で売る。学生は、きのこ汁の振る舞いやおでんの販売などにも協力する。

新包装の笹おやきは今後、店頭での常設販売も予定している。問道の駅中条（☎26・2188）。

資料：『日本農業新聞』（2016.11.10）

2016年（平成28年）11月10日（木曜日）　日本農業新聞

松本大生が長野市の道の駅中条と連携

実践力学び地域元気に

大豆栽培体験、食品開発も

6次化で貢献へ

長野県松本市の松本大学の学生は、長野市の道の駅中条と連携し、農産物の生産から加工、販売までを学びながら、地域を元気にしようと活動している。特産の大豆の栽培を体験し、新たな食品を開発。6次産業化の実践に携わり、住民と交流しながら地域活性化を目指している。

この取り組みは、今年で2年目。同大学と道の駅中条の指定管理者アクティオ㈱、道の駅を所管する国交省長野国道事務所は昨年7月、地域活性化を担う人材の育成を狙いに連携協定を結んだ。同大総合経営学部の清水聡子教授のゼミに所属する3、4年生が活動する。

昨年は、道の駅のある同市中条地区を調査。地元に伝わる子育ての神様、山姥（やまんば）伝説にちなんだキーホルダーや、特産の大豆を活用した総菜パン「おからドッグ」を開発した。秋祭りで、これら商品を販売したり、ダンスイベントを企画したりして、地域の人たちと交流した。

……ゼミの3、4年生全員が参加した大豆収穫作業

2年目の今年は、19人の学生が参加。道の駅副施設長の藤本人寿さんの手ほどきで大豆を栽培、種まきや収穫作業に汗を流した。大豆を活用した新たな食品の開発と道の駅の看板商品の「笹（ささ）おやき」のパッケージ製作などを進めている。3日に開かれた秋祭りでは、試作パッケージの商品を販売した。大豆食品は来年秋の完成を目指し、3年生が開発を引き継ぐ。

昨年から携わる、4年の阿部愛さんらは「地域と提携したプロジェクトは、いい学びになった」と手応えを感じている。

道の駅中条の下内光雄施設長は「道の駅を地域づくりの拠点とするために、今後も学生の力を借りていきたい」と意気込む。学生を指導する清水教授も「地域と関わることで実践力を身に付けるとともに、山里の振興に貢献したい」と話す。

2017年3月3日ポスター

国土交通省 関東地方整備局

国土交通省では、全国各地で、「道の駅」と大学との連携を実施しています。この取り組みは、地域の魅力の集まる「道の駅」と大学生の交流により新たな価値の創造を図り、観光地域づくりなどを担う将来の人生育成や地方創生にも寄与が期待されているところです。